

# 学会報告(プレゼン)とは どんなものか？



研究プレゼンテーションワークショップ  
2012.10.20 高木英至

1

## この授業は...

- 学会報告(学会大会でのプレゼンテーション)を想定する
- 学会報告の多様性
  - 古典的スタイル
    - 講演会風 - 報告時間が長い
    - 報告者は「原稿」を読む
  - 勉強会スタイル
  - 今日的スタイル
    - 報告時間は短い
    - Oral / Poster
  - 分野による多様性

このスタイルで考  
える

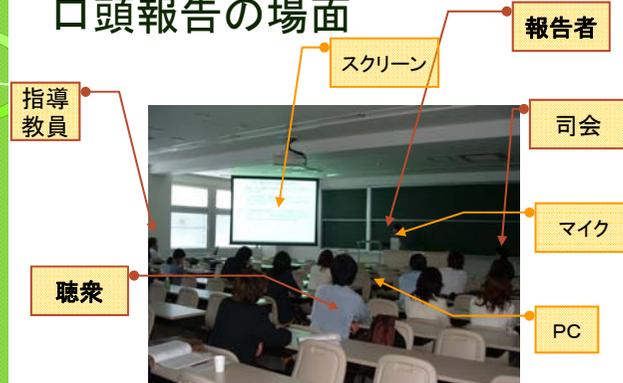
2

## 口頭報告(Oral Presentation)

- 状況(学会によるだろうが...)
  - 1セッションで数本の報告(5、6?)
  - 1報告当り12~20分
  - 通常は時間厳守
  - 聴衆は報告ごとに他のセッションに移動(も)
- 流れ:例
  - 報告:12分
  - 不明点の質問:3分
  - セッションの終わりで討論・質疑
- 報告者の準備
  - PowerPoint ファイル
  - 報告のリハーサル

3

## 口頭報告の場面



4

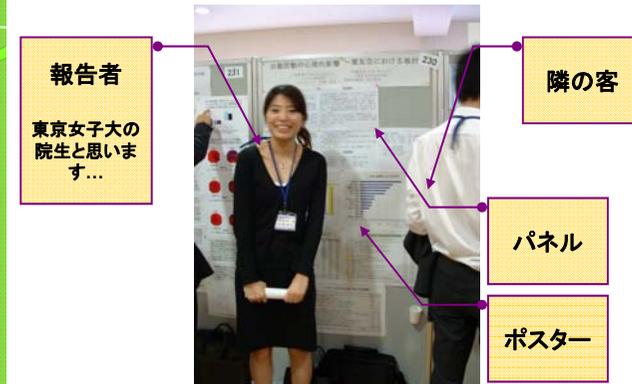
## ポスター・セッション

- 状況
  - ポスターを貼るパネルの大きさは主催者から指示される
  - 1会場(部屋)に多数のポスターが一定時間(例えば2時間)掲示される
  - 報告者には一定時間(例えば1時間)の在席義務がある
  - 必要に応じて「お客さん」と質疑、議論をする
- 報告者の準備
  - ポスター
  - 興味を示す人への説明のリハーサル



5

## ポスター・セッションの場面



6

## ポスター・セッション(続き)

- ポスターセッションをする可能性は高まっている
  - 報告数が多くなった、という事情
- 口頭報告に比べて、関心のある聴き手と長時間議論をできる
- 客が少ない場合の問題
  - 客が少ないと人が寄りつかない
  - 仲間にサクラになってもらうことも必要
- できればより詳しい資料をプリントとして用意



7

## 質問タイム

8

## PowerPoint の利用: その特徴

- 作業時間の短縮
- 表現様式の標準化
- マルチメディアの利用
  - グラフ、画像
  - サウンド 
  - 動画 
- 外部プログラムの利用 
- ナレーションの挿入
- ハンドアウト印刷



9

## PowerPointの利用: 実演

- プロジェクタにPCをつなぐ
  - ノートPCを持ち歩く
  - 会場のPCでファイルを使う
- 報告内容とスライドの協調
  - 主役は報告者
- 指示棒/レーザーポインタの使用
- 制限時間に応じてスライドを飛ばす
- なるべくシンプルに
  - 複雑すぎると実演で失敗する



10

## ポスターの利用: その特徴

- ポスターセッションが多くなる
- 実際
  - 掲示して「客」を待つ
  - 少数の人とのコミュニケーション
  - 双方向的な議論の機会が多い



11

## ポスターの風景(1)

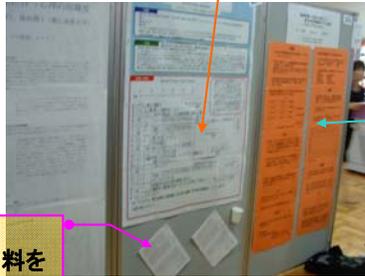
PowerPointからA4に出力したシートをそのまま貼っている。これでもよい。



12

## ポスターの風景(2)

大き目の紙を貼っている。この方が見栄えが良い。



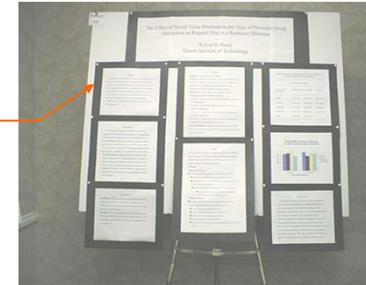
「客」に渡す資料を用意してある

色で目立とうとしている。これも1つの工夫

13

## ポスターの風景(3)

1枚ごとに濃い色の背景紙を用いているので見やすい

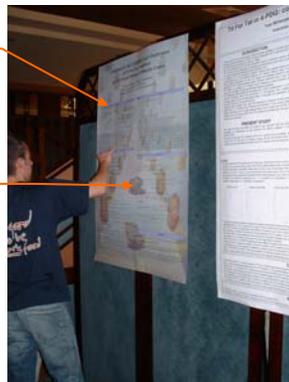


14

## ポスターの風景(4)

デザインはいろいろ(悪趣味!)

大きな1枚の用紙にプリント



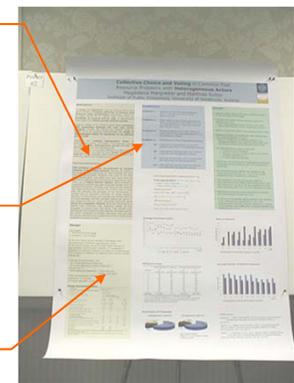
15

## ポスターの風景(5)

1枚のプリントで効果的に内容を配列

内容区分ごとに背景の色を変えているので分かりやすい

配色が上品



16

## ポスターの作成法

- ワードプロ/プレゼンテーションソフトからプリント出力
- 大きな用紙用のプリンタで印刷
  - PowerPoint でそのまま大きなポスターを作る
- 小さな用紙のプリンタ(例:A4プリンタ)しかない場合
  - A4用紙を繋いでポスターにする
  - 小さい用紙を拡大コピーする
  - 大型ポスター用のソフトを使う



17

## 終わり

次は  
プレゼンテーション  
の概説です。



18